

大きさ

【発達領域】考えることの発達



『大きな栗の木の下で』『おおきなたいこちいさなたいこ』『おべんとう箱』などの手遊び歌でも大きさに触れることが出来ました。

保育者が歌うと反応して近づいてきて、動作を真似たり口ずさんだりする子がいました。

『おおきなたいこちいさなたいこ』は大きな太鼓のときは体を大きく動かし、音も大きくだし、小さい太鼓のときは体を前傾させ小さくなりながら、指先で優しくトントンとたたく子もいたり、動きと言葉が一致してきていることを感じさせてくれました。

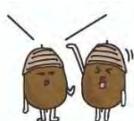
触れ合い遊びは、触れ合うことでリラックス効果や安心感を得たり、刺激を受けることで感覚が発達したり、体全体や指先の運動にもなるため、これからも遊びの中にたくさん取り入れていきたいと思っています。



遊びの中で実際に手を合わせたり足を合わせたりして実際に大きさを比べて目で見て言葉にしてみました。

先生より小さい、お友達同士で比べてみて「同じくらいかな？」と保育者が言葉で大きい・小さいを伝えながら、大きさに触れることが出来ました。

また、大きいものは頭にかぶれるけど、小さいものは入らない。実際にやってみて気づいた子どもたちでした。



中庭に出て外でもいろいろな発見をしました。

裸足で外に出てみると、つめたい・濡れた・汚れた・チクチクした感触を体験した子どもたち。

初めて出たときは不安そうな表情をしていた子どもたちも、徐々に慣れてきてそれぞれ探索活動を始めます。

大きい石・小さい石、大きい葉っぱ・小さい葉っぱ。見つけては手に取り、ここでも大きさに触れました。

においをかぐ、外の気温を体で感じる、風で葉っぱが揺れる音や車の音を聞いたり、五感をたくさん使った外遊びもこれからたくさんしていきたいと思っています。





普段子どもたちがよく遊んでいるのがポットン落としやおままごとです。カップにチェーンを入れたお友だち。少しだとすんなりカップに入れることができますが、いっぱい入れようとするとカップからあふれてしまい崩れてくることに気づきました。



ぎゅっと押し込んだり、そーっと積み上げたり、力加減や指先を上手く使い、集中して遊ぶ姿が見られました。

また、数を数えたり、「いっぱい」の言葉を真似したり、手でいっぱいを表現してくれるお友だちなど、目を見たことや耳で聞いた言葉を自分なりに表現してくれて、言葉との一致もさせることができました。



大小のボールに触れることで大きさの違いにも気づきました。大きいボールを持ってみたら重い、持ちにくい、持ったら前が見えない...両手を大きく広げて全身を使って持ち上げます。

保育者が「おっきいね〜！」と声をかけると子どもたちも真似して「おっき！」と言葉にする子もいました。

小さいボールは軽く、手のひらに収まり片手で投げられる、そんな気づきもありました。



太鼓橋にボールをのせて遊んでいるお友だちがいました。

小さいボールは穴から落ちるのに、大きいボールは穴からは落ちないことを遊びで発見しました。同じ色・同じ形のボールでも違いがあることにも気づきました。



子どもたちは遊びの中で、保育者が伝えなくてもいろんなことを自分で考え行動を起こし、そこで気づいて発見することがたくさんあります。

子どもたちに関わる時も、何かに集中している時には声をかけず見守る、目線を送ってきたら反応してあげる、子どもたちの気づきや発見を言葉にする、認めることが子どもたちの成長にもつながります。



9月生まれのおともだち

